

ポスト社会主義期のルーマニアの少数民族問題
中島崇文(東京大学大学院総合文化研究科)

東欧諸国の少数民族問題は、1990 年代初めまで国ごとに比較的均等に論じられてきたが、その後旧ユーゴ紛争が勃発し、これが長期化、激化したため、旧ユーゴ以外の国々についてはほとんどその陰に隠れてしまった感がある。本報告では、そのユーゴスラヴィアの隣国であるルーマニアの 1989 年以降の少数民族の状況について振り返った。